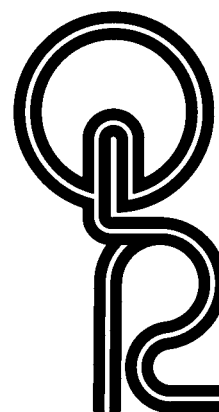


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 20 No.2, 2013



福井県水月湖。この湖底に連続した年縞堆積物がある。完新世基底の副模式地に採用されている他、今年改定される予定の放射性炭素校正曲線 (IntCal13) の主要な構成要素になることが決定している。(解説：中川 毅、撮影：Michael Marshall)

Vol. 20 No. 2

April 1, 2013

2013年大会案内・・・・・・・・・・	2	編集委員会規定制定・・・・・・・・	13
学術賞受賞者講演会・・・・・・・・	5	粘土科学討論会・・・・・・・・・・	15
連合大会プログラム・・・・・・・・	5	第3回幹事会議事録・・・・・・・・	15
ワークショップ報告・・・・・・・・	9	第4回幹事会議事録・・・・・・・・	16
INQUA 回想録・・・・・・・・・・	10	会員消息・・・・・・・・・・	16
評議員会議事録・・・・・・・・・・	11		

◆日本第四紀学会 2013年大会案内（第2報）・発表申し込み

<大会の概要>

1. 日時・開催場所：2013年8月22日（木）～8月24日（土）
弘前大学（〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地）
2. 関連行事も含めた大会日程
8月22日 一般研究発表（口頭およびポスター）・評議員会
8月23日 一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・懇親会
8月24日 シンポジウム
8月25日 巡検
3. 発表の申し込み締め切り：2013年6月14日（金）
4. シンポジウム
公開シンポジウム「縄文時代の津軽一人と自然をさぐる」
詳細については次号で案内します。
5. 巡検の概要
8月25日 巡検「津軽平野とその周辺域の縄文遺跡、テフラ、活断層」（日帰り）
詳細と申し込みは次号で案内します。
6. 大会実行委員会
実行委員会委員長 松垣大助
連絡先：実行委員会事務局 小岩直人
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
弘前大学教育学部
Tel/Fax 0172-39-3347
Koiwa(at)cc.hirosaki-u.ac.jp

<発表の申し込み>

1. 一般研究発表の申し込み
 - 1) 発表者の資格と発表件数の制限
一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者（資格は会員であること）としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表が可能です。
 - 2) 発表の形式と発表時間
発表セッションは、口頭発表（オーラルセッション）およびポスターセッションがありますので、発表申込用紙にあるセッションから希望する方を選択して下さい。発表件数によっては、必ずしも希望のセッションにならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
口頭発表（オーラルセッション）の時間は1件15分程度（質疑応答時間を含める）を予定しています（発表件数によって変更の可能性があります）。十分な説明や討論を希望する方にはポスターセッションへの申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。
 - 3) 若手発表賞へのエントリー
本会会員で大会時39歳以下の方は、発表形式・テーマにかかわらず若手発表賞にエントリーすることができます。エントリー希望の方は、申込書の若手発表賞エントリー欄の該当箇所記入して下さい。積極的なエントリーを期待しております。授賞式は懇親会で行います。
 - 4) 発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り
一般研究発表希望者は、日本第四紀学会ホームページ（<http://quaternary.jp/>）より、「第四紀学会一般発表申込書」（MS-Excel ファイル形式）をダウンロードし、必要事項を記入の上、後述する講演要旨のpdfファイルと共に、**6月14日（金）までに専用アドレス（[jaqua2013\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2013(at)gmail.com)）**あて、発表タイトルごとにひとつの電子メール（メールの題名は必ず「一般発表申込：筆頭発表者名（2件申し込む場合はA、Bを末尾につけて両者を区別して下さい）」として下さい）の添付ファイルとしてお送り下さい（締め切り厳守）。発表申込書の添付ファイル名は「発表申込書：筆頭発表者名（2件申し込む場合はA、Bを末尾につけて両者を区別して下さい）」として下さい。講演要旨は、「3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった形式のpdfファイルを、同じ専用アドレス（[jaqua2013\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2013(at)gmail.com)）あて、電子メールの添付ファイルでお送り下さい。講演要旨の添付ファイル名は「講演要旨：筆頭発表者名（2件申し込む場合はA、Bを末尾につけて両者を区別して下さい）」として下さい。**講演要旨原稿は2ページ**で執筆して下さい。
電子メールが使用できない場合は、後述する「発表申込用紙」（コピーでもよい）に所定の事項を記入の上、写真製版可能な講演要旨1部と共に郵送で下記担当幹事あてにお送り下さい。なお、メールの添付ファイルでお送りいただいた講演要旨原稿のpdfファイルは、担当幹事がプリンタによって印刷する予定ですが、印刷時の画像の歪み・乱れや解像度については責任を持ってませんので、不安な場合は郵送による原稿の送付をお勧めします。

要旨集原稿・発表申込用紙の送付先（郵送の場合）：

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京 5号館 335号室 出穂雅実

5) 知的財産権に関する講演要旨執筆上の注意点と同意の方法

発表申し込みの際には、本発表申し込み末尾の「4. 講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようにお願いします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入（入力）することで成立することとします。

2. シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、「3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった形式の pdf ファイルを、専用アドレス (jaqua2013(at)gmail.com) へて、電子メールの添付ファイルでお送り下さい。メールの題名およびファイル名は「シンポジウム講演要旨：筆頭発表者名」として下さい。電子メールが使用できない場合は、写真製版可能な原稿を6月14日（金）までに上記の行事担当幹事までお送り下さい（締め切り厳守）。原稿枚数は2ページでお願いします。

3. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意した A4 版白紙を、横書き・縦置きで使用して下さい。左右各 2.5cm、上端 3.0 cm、下端 3.5cm は空白にして下さい。表題・著者名は、(例) のように和文表題・著者名（所属）、英文著者名・表題の順に書いて下さい。和文表題は、1 行目の左側を 1.5 cm あけて（左端から 4.0cm）左詰めで書いて下さい。2 行以上にわたる場合でも 1.5cm あけて左詰めで続けて下さい。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いて下さい。2 行以上にわたる場合でも 1.5 cm あけて右詰めにして下さい。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いて下さい。英文著者名・表題は和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「：」でつないで書いて下さい（所属は不要）。

本文は英文表題の次の 1 行をあけて書き始めて下さい。行数・字数は自由ですが、36 行・35 字程度を目安として下さい。不明な場合は昨年 の要旨集を参考にして下さい。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字して下さい。

手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いて下さい。手書き図表の場合には黒インクを使用し原稿用紙に直接描くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼って下さい。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようにご注意ください。印刷時に A4 の原稿が B5 版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の 1」という表現はしないで必ずスケールを入れて下さい。

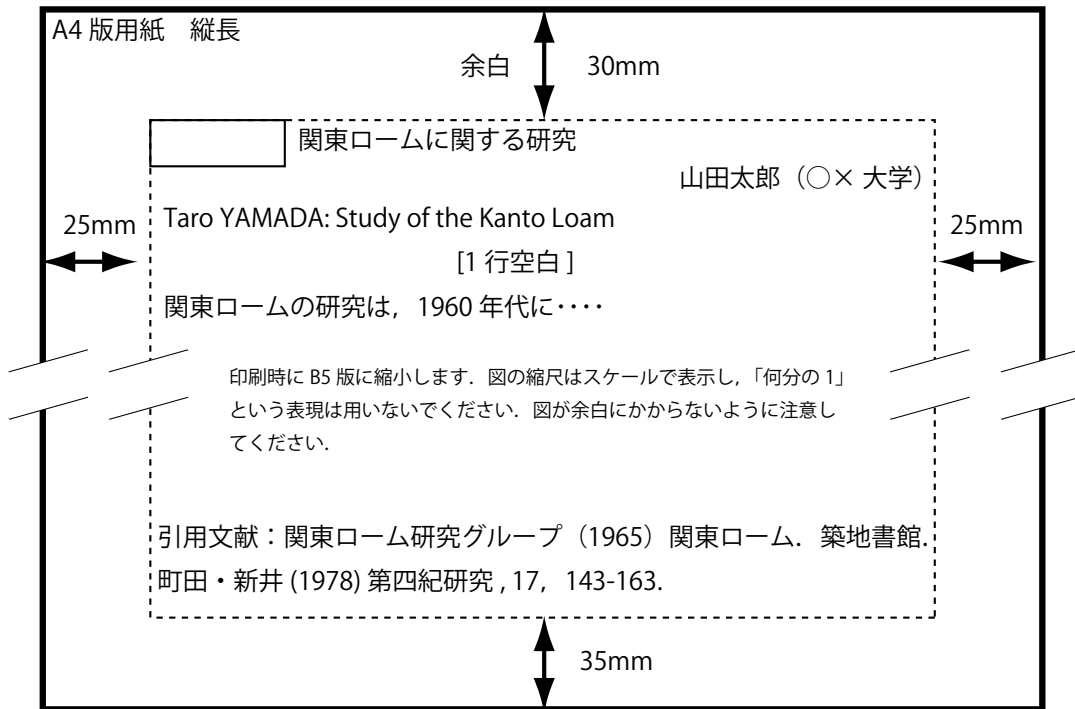
講演要旨原稿をメールの添付ファイルにする場合は、必ず pdf ファイルに変換してお送り下さい。

4. 講演要旨執筆上の注意

2013 年 3 月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作財産権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか（2005）第四紀研究，44，371-381。」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

講演要旨の書き方の例



2013年第四紀学会発表申込書

(電子メールの添付書類で下記の内容を送信すれば本申込書は郵送不要)

氏名・所属			
講演題目			
筆頭発表者の連絡先	〒 e-mail : TEL : FAX : (非会員の方の場合、所属学会を記入ください：)		
希望の発表形式	() 口頭発表	() ポスター	() どちらでも可
若手発表賞のエントリー	() 口頭発表	() ポスター発表	
「講演要旨執筆上の注意」を理解し、その内容を遵守するならば、以下に氏名を入力して下さい。			
私 () は、「講演要旨執筆上の注意」を理解し、その内容を遵守します。			

◆日本第四紀学会 2011-2012 年学術賞受賞者講演会のお知らせ

期日：2013年6月22日（土）13:00～16:00

（参加費無料、申し込み不要）

会場：大阪大学豊中キャンパス（理学研究科宇宙地球科学専攻）
（大阪府豊中市待兼山町 1-1；会場詳細は次号通信に掲載します。）

寒川 旭 会員

受賞件名：「地震考古学による新たな融合学問分野の創造と啓発活動」

成瀬敏郎 会員

受賞件名：「風成堆積物の体系的研究と第四紀古気候への貢献」

兵頭政幸 会員

受賞件名：「古地磁気層序の高度化と古環境・人類学への貢献」

【問合せ・連絡先】

高田将志（奈良女子大学人文科学系）

e-mail：takada(at)cc.nara-wu.ac.jp

電話：0742-20-3323

谷 篤史（大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻）

e-mail：atani(at)ess.sci.osaka-u.ac.jp

電話：06-6850-5540

◆日本地球惑星科学連合 2013 年大会プログラム

日本地球惑星科学連合 2013 年大会が下記のとおり開催されます。連合大会は、地球惑星科学を学際的に盛り上げていく場として、年々重要度を増しており、2013 年大会の発表申込数は 3,800 件を超えています。みなさまの積極的な参加を期待しています。

- ・期日：2013年5月19日（日）～24日（金）
- ・場所：幕張メッセ国際会議場
- ・大会詳細：<http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>（各セッションの日程と会場を確認できます）
- ・事前参加登録（割引料金）締め切り：2013年5月7日（火）17:00

第四紀関連オーラルセッション（一部抜粋）

日時 * > セッション記号：セッション名 会場

*AM1=9:00～10:45、AM2=11:00～12:45、PM1=14:15～16:00、PM2=16:15～18:00（昨年までと異なります） 太字は第四紀学会開催セッション、下線は PAGES 関連セッション

5月19日 AM1+2 > S-EM36：地磁気・古地磁気・岩石磁気 201B

5月19日 PM1+2 > S-GL40：地球年代学・同位体地球科学 201A

5月20日 AM1～PM1 > O-05：日本のジオパークー見どころ紹介と新ジオパークの公開 300

5月20日 AM2 > H-CG30：堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動 101A

5月20日 PM1+2 > H-SC25：人間環境と災害リスク 301A

5月20日 PM1+2 + 5月21日 AM1～PM2 > A-PE34：古気候・古海洋変動 103

5月21日 PM1+2 > M-IS32：ジオパーク 106

5月21日 AM1+2 > H-GM03：Geomorphology 101B

5月21日 PM2 > B-PT28：人類進化と気候変動 202

5月22日 AM1～PM1 > S-SS32：活断層と古地震 303

5月22日 AM1～PM1 > A-CG35：中部山岳地域の自然環境変動 301A

5月22日 AM1+2 > H-RE29：地球温暖化防止と地学 103

5月23日 AM1+2 > A-CC33：氷床・氷河コアと古環境変動 105

5月23日 AM1～PM1 > H-QR24：ヒトー環境系の時系列ダイナミクス 201B

5月23日 PM2 > H-DS28：海底地すべり 104

5月24日 AM1+2 > H-QR23：平野地域の第四紀層序と地質構造 202

5月24日 AM1～PM1 > M-IS25：津波堆積物 106

5月24日 AM2+PM1 > M-ZZ42：PALEO 研究の最前線とその将来の発展性 104

ポスターセッションは、幕張メッセコンベンションホールで開催されます。ポスターは発表日に終日掲示されます。コアタイムは 13:45 ~ 15:00 と 18:15 ~ 19:30 です。また、オーラルセッションで、ポスター 1 件につき 3 分間の口頭説明が行われます（希望者のみ）。

第四紀学会単独・主催セッション

3 月 15 日現在での暫定的な発表リストです。紙面節約のため筆頭発表者のみ記されています。発表順等の詳細プログラムは、セッションごとに編成中です。確定したプログラムは追って大会ウェブサイトを確認できます。

H-QR24 『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』オーラルセッション

5 月 23 日（木）9:00 ~ 16:00 幕張メッセ国際会議場 201B

【注】ポスター発表に変更となる可能性もあります。

- 1 山田和芳他：グアテマラ、マヤ低地の湖沼堆積物に記録される過去 2 ~ 3 千年間の気候変動
- 2 山崎彬輝他：カンボジア、サンボー・プレイ・クック遺跡地域の堆積環境変遷
- 3 原口 強他：カンボジア・トンレサップ湖における完新世の流路網
- 4 南雲直子他：トンレサップ水系セン川下流域氾濫原の地形発達
- 5 須貝俊彦：北アナトリア、ウルガズにおける過去 2000 年間の気候変動
- 6 佐藤明夫他：完新世の中央アジア沙漠地域における砂丘活動と気候変動
- 7 星野安治他：下北半島産ブナ標準年輪曲線を用いた夏気温復元の可能性
- 8 永安浩一他：琵琶湖堆積物コアの珪藻分析に基づく第四紀後期における古環境解析
- 9 山田圭太郎他：別府湾における過去 3000 年間の堆積環境及びイベント堆積物
- 10 小荒井 衛他：信濃川歪集中帯における地震による活褶曲の成長と斜面変動
- 11 藤根 久他：善光寺岩屑なだれの年代観について
- 12 中村俊夫他：日本産樹木年輪試料に基づく暦年較正データの検討
- 13 大山幹成他：東京都中央区八丁堀三丁目遺跡出土木棺材より構築した 802 年間の標準年輪曲線
- 14 北川淳子他：一の目瀧の年輪堆積物を利用した人間活動による秋田の森林環境の歴史の復元
- 15 鈴木伸哉他：東京都新宿区崇源寺跡より出土した木棺材の樹種と年輪からみた 17-19 世紀の江戸における木材利用の変遷
- 16 川幡穂高他：8 世紀の奈良平城京における重金属汚染
- 17 野口 淳他：現代型人類拡散の「南回りルート」における地理的多様性
- 18 中村由克：後期旧石器時代前半期における日本海沿岸域の石器石材ネットワーク

H-QR24 『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』ポスターセッション

幕張メッセコンベンションホール

- 1 横田彰宏他：白老一苦小牧低地で発見された 17 世紀以降のテフラ群と樽前火山の噴火史
- 2 近藤玲介他：北海道北部オホーツク海沿岸における中期更新世海成段丘の pIRIR 年代測定
- 3 村上龍平他：三陸海岸南部、気仙沼湾周辺の高成段丘への pIRIR 年代測定法の適用
- 4 丸山翔平他：pIRIR 年代測定法を用いた関東平野、武蔵野台地北西部、所沢面の編年
- 5 石井祐次他：石狩川下流域にみられる三日月湖の堆積物による洪水史復元
- 6 佐々木夏来他：八幡平火山の地すべり活動と湿地の形成
- 7 星野安治他：秋田県森吉家ノ前 A 遺跡出土材を用いた年輪考古学的研究
- 8 大上隆史：三陸海岸北部における高成段丘群を横断する岩盤河川の発達モデル
- 9 若山大樹他：東北地方太平洋沖地震での液状化発生場所から見た液状化発生条件の検討
- 10 高橋 緑他：東京・中川低地における表層堆積物と津波遡上シミュレーションに基づく津波到達の可能性
- 11 新井悠介他：甲府盆地南東部、京戸川扇状地の形成年代
- 12 菅澤雄大他：南アルプス南部、赤石岳周辺における完新世のソリフラクション
- 13 佐藤善輝他：珪藻分析から復元された浜松平野西部の堤間湿地における完新世後期の堆積環境変遷
- 14 石川怜志他：木津川下流域における天井川の発達過程と人間活動
- 15 山田圭太郎他：音波探査に基づく別府湾の断層分布とその成因
- 16 五十嵐隆亮他：シラス分布域における浸食地形の発達過程と斜面崩壊の発生機構についての検討
- 17 五反田克也他：沖縄県北部地域における人間活動の歴史と環境変化についての堆積学的研究
- 18 滝澤みちる他：後期更新世から現在までの日本海上越沖における環境変動— MD179 航海掘削コアの粒度変動から— 1

H-QR23 『平野地域の第四紀層序と地質構造』オーラルセッション

5 月 24 日（金）9:00 ~ 12:45 幕張メッセ国際会議場 202

- 1 宮地良典他：利根川下流低地における液状化層のトレンチ調査— 2011 年東北地方太平洋沖地震に

おける液状化現象の解明ー

- 2 石原与四郎他：ボーリングデータベースを用いた地層の連続性の評価と3次元地質モデルの構築
- 3 羽佐田紘大他：木曾川デルタの前進と堆積土砂量・蓄積炭素量の変動
- 4 木村克己他：福岡平野の地下地質構造と警固断層のテクトニクス
- 5 鈴木毅彦他：立川断層帯ボーリング調査で検出された前期更新世テフラとその対比に基づく周辺域の地下構造
- 6 卜部厚志：茨城県潮来市日の出地区における液状化被害要因の検討
- 7 楡井 久他：水域埋立地の人工地層層序と液流動化現象
- 8 水野清秀他：利根川下流域における液状化層の地質学的総合調査
- 9 稲崎富士：稠密粒度分析による基本統計量解析と液状化層の同定
- 10 田村 亨：古環境指標としての浜堤地形と海浜堆積物：レビュー
- 11 風岡 修他：2011年東北地方太平洋沖地震の際液状化一流動化した層準：利根川下流低地神崎町の旧河道周辺

H-QR23 『平野地域の第四紀層序と地質構造』ポスターセッション

幕張メッセコンベンションホール

- 1 中島善人他：X線CTの液状化コア試料の3次元構造解析への適用
- 2 重野聖之他：地殻変動によって規制されたバリアーシステムの復元：千島海溝沿岸域に位置する風蓮湖バリアーシステムの研究例
- 3 櫻井皆生他：大阪平野の表層地質情報データベースから地下構造を推定する試み
- 4 白井正明他：多摩丘陵北縁、上総層群稲城層の堆積環境
- 5 木村克己他：福岡平野の三次元地下地質構造
- 6 田辺 晋他：利根川低地下流部における沖積層の堆積相と放射性炭素年代
- 7 後藤 翠他：東京都世田谷区、府中市で掘削された上総層群ボーリングコアのテフラ対比

S-SS32 『活断層と古地震』オーラルセッション

5月22日(水) 9:00～16:00 幕張メッセ国際会議場 303

【注】ポスター発表に変更となる可能性もあります。

- 1 松浦律子：明治期の二地震の震源改訂の提案
- 2 阿部信太郎他：サロベツ断層帯海域延長部における断層・褶曲分布について
- 3 吾妻 崇他：十勝平野断層帯（光地園断層）の断層活動時期
- 4 楢原京子他：北上低地西縁断層帯に沿う浅部地下構造と変動地形
- 5 渡辺満久他：日本海東縁の海底活断層
- 6 豊蔵 勇他：首都圏山手台地における推定第四紀断層と建設工事における「地層分布の深度急変箇所」との関連性
- 7 金 幸隆他：海底地形に基づく伊豆東方線沿いの活断層帯の提起
- 8 北村晃寿他：隆起貝層に基づく伊豆半島南端の地殻変動
- 9 野澤竜二郎他：猿投山北断層南西端延長部の地質学的検討
- 10 竹内 章他：富山市市街地の呉羽山断層の地表位置と地下構造
- 11 栗田泰夫他：長良川上流断層帯、八幡断層の完新世における古地震履歴
- 12 大谷具幸他：最近の活動が認められない地質断層の断層破碎帯における元素分布の特徴ー三重県大紀町の仏像構造線を例として
- 13 木村克己他：ボーリングデータ解析に基づく福岡平野の警固断層と地下地質構造の特徴
- 14 竹村恵二他：1596年慶長豊後地震の断層モデル
- 15 中村 衛他：沖縄本島周辺で発生した2つの歴史地震津波の断層モデルー1768年地震と1791年津波ー
- 16 林 愛明他：1739年M8中国銀川平羅地震による万里の長城のずれの再評価
- 17 Supartoyo：Study Paleoseismology of Cimandiri Fault, Sukabumi, West Java, Indonesia

S-SS32 『活断層と古地震』ポスターセッション

幕張メッセコンベンションホール

- 1 横倉隆伸他：勇払平野海岸部の活構造
- 2 黒澤英樹他：断層露頭の観察に基づく黒松内低地断層帯の活動性
- 3 山市 剛他：三陸海岸、久慈川低地の完新世古環境復元ー垂直変動に関連してー
- 4 遅沢壮一他：カルデラ縁辺などのリストラック正断層が再動した岩手・宮城内陸地震(M6.9)の地表地震逆断層
- 5 岡田真介他：仙台平野南部における浅層反射法地震探査データ取得
- 6 鈴木毅彦他：福島県会津坂下町周辺の第四紀地下地質と会津盆地西縁断層帯の活動

連合大会プログラム

- 7 横井大樹他：2011年4月11日福島県浜通りの地震 M7.0 に伴って生じた地震断層の地下構造
- 8 金田平太郎他：房総半島南端部における後期更新世以降の隆起速度
- 9 小林大育他：房総半島内房海岸の完新世地震性地殻変動－北武断層の活動に関連して
- 10 石山達也他：立川断層の巨大トレンチ掘削調査（榎トレンチ）
- 11 宇田俊秋他：重力異常からみた富山盆地の構造
- 12 神嶋利夫：砺波平野断層帯西部 石動断層の位置と活動性
- 13 杉山雄一他：柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯北部海域延長部の音波探査
- 14 山本博文他：柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯北部の最新活動時期の再検討
- 15 市原季彦他：沿岸域海底活断層調査におけるジオスライサー調査法
- 16 流川遥平他：岐阜県、根尾谷断層中部、門脇バイパス工事に伴う地質露頭と断層バルジ地形
- 17 谷口 薫他：糸魚川－静岡構造線活断層系中部におけるトレンチ調査（速報）－岡谷市西山地点の調査結果－
- 18 近藤久雄他：糸魚川－静岡構造線活断層系・岡谷断層における最近4回の活動
- 19 近藤久雄他：詳細 DEM と第四系層序を用いた上町断層帯の平均変位速度分布
- 20 杉戸信彦他：上町断層帯の最新活動時期－岸和田市磯上町におけるピット掘削調査－
- 21 北田奈緒子他：ボーリングデータを用いて検討した上町断層前縁部の構造について
- 22 竹村恵二他：上町断層帯の市内西側に見られる変形ゾーンの性状について
- 23 井上直人他：Dislocation モデルによる上町断層と大阪盆地縁辺断層により形成される基盤構造
- 24 領木邦浩他：大阪湾岸中南部での重力測定
- 25 岩田知孝他：上町断層帯における重点的な調査観測について（3）
- 26 八木雅俊他：沿岸域活断層調査「布引山地東縁断層帯」（1）高分解能地層探査結果
- 27 三田村圭祐他：生駒断層帯に沿って産する断層露頭における断層ガウジの内部構造
- 28 池田倫治他：四国北西部の中央構造線活断層帯川上断層の完新世活動履歴
- 29 田力正好他：大原湖断層帯の断層変位地形－中国地方西部の活断層密集域に分布する長大活断層
- 30 平倉瑤子他：堆積年代の検討に基づく博多湾内警固断層の活動時期の推定
- 31 下山正一他：博多湾内警固断層帯の活動性と断層分布特性
- 32 下山正一他：日向峠－小笠木峠断層と糸島半島沖断層群の連続性について
- 33 生田正文他：沿岸域に分布する正断層の活動履歴の解明：宮崎県川南断層における試み
- 34 堤 浩之他：現地調査と合成開口レーダ干渉法によって明らかとなったレイテ島のフィリピン断層のクリープ変位

◆ 2012 年度ワークショップ「中・後期更新世の古気候情報の編年と統合」の報告

第四紀学会古気候変動研究委員会

古気候変動研究委員会は、2012年12月21～23日、福島大学金谷川キャンパスで標記WSを開催したので、概要を報告する。

第I部では、「猪苗代湖掘削の成果と第四紀の気候・環境変動」というテーマで、第四紀の研究における湖沼堆積物研究の重要性と、福島大学が主催している「磐梯朝日遷移プロジェクト」における猪苗代湖湖底掘削意義、および猪苗代湖掘削の結果と予察的な成果が報告された。猪苗代湖掘削では、湖心のやや南側の位置で、深度27.3mまで掘削され、約5万年前までをカバーすることが判明した。コア試料は隣り合う複数のサイトで互い違いの深度で採取されており、組み合わせることで連続性が保証されている。堆積物の多くには顕著な明・暗の縞があり、サイト間のコア対比に有用であるだけでなく、それが意味する環境変動や成因にも興味を持たれる。

第II部では、指標テフラの年代や編年に関わる報告と古気候指標に関わる報告があり、また、今後の研究方針について議論した。

奥野さんらは、一の目潟の堆積物について年稿の計数と多数の¹⁴C年代値に基づいて3万年前までの指標テフラの年代を求めた。大山草谷原と浅間草津の広域性と年代が注目された。山田さんらは鹿兒島県蘭牟田池のボーリングコア試料を採取・検討し、AT層準までの指標テフラを報告した。桜島薩摩などの桜島起源のテフラに興味深い。長橋さんは琵琶湖、野尻湖および高野層のテフラ層序を総括的に紹介した。中里さんはMIS 7.3に降灰したKy4テフラが東北地方を起源としながら遠く大阪湾にまで追跡されることを報告した。池原研さんは日本海堆積物に見つかる指標テフラをレビューし、日本海のレーザー効果についても報告した。

古気候の代理指標については、井内さんからは琵琶湖堆積物のシリカ量変動を指標とする古気候解析が報告され、日本海との共通性が高いことが指摘された。公文ほかでは、野尻湖と高野層を結合して、TOC量の変動からみた過去16万年間の気候変動の復元が紹介された。また、ト部さんらによって、日本海堆積物のTOC量変動がグリーンランド氷床の酸素同位体比変動と酷似することが報告された。池原実さんらは、太平洋側の堆積物に記録された海洋酸素同位体比変動を指標テフラの産出層準と結びつけて報告した。

今後の研究の進展や資料の集成のためには、年代の基準を統一することの重要性が確認され、以下のような「基準」で、「統一化」を図ることが提案された。試案を公表して、意見を求めることとした。本研究委員会宛にご意見をいただければ幸いである。

<指標テフラの年代決定方法についての提案(試案)>

1) 5万年前以降

第1基準年代：水月湖で確認される指標テフラは水月湖データセットの年代値を採用する。

第2基準年代：水月湖にない指標テフラ(例えば浅間草津や大山草谷原)については、水月湖と共通する指標テフラを基準として、それぞれの湖沼の年縞数から計算する。例えば、可能性の高い堆積物試料は一ノ目潟のデータセット。

第3基準年代：上記のような手法で年代が確定した指標テフラ間に見られるテフラについては、堆積速度を一定と仮定して、内挿法で計算して求める。対象は純層のテフラにかぎる。

2) 5万年前以前

第1年代基準：海洋酸素同位体比LR04上での層位から推定される年代値を選ぶ。海洋堆積物にも挟まれる広域テフラを基準に用いる。用いる酸素同位体資料は底生有孔虫殻から測定されたものを使い、太平洋側を優先する。

第2年代基準：LR04酸素同位体曲線を基準とし、表層有孔虫化石を含む資料からの海洋酸素同位体曲線を用いて、広域テフラの層位から年代を推定する。

第3年代基準：海洋で広く見いだされないその他のテフラについては、第1ないし第2基準の年代値を用いて、A.琵琶湖、B.野尻湖、C.高野層での層位関係から求める。対象は純層のテフラにかぎる。

第4年代基準(補助的)層位情報：第3基準までに入っていないテフラについては、どこの層位関係を用いたか(引用論文)を明記する。利用者がオプションとして層位関係を入力する。利用状況をモニターできる場合、頻度の高い情報は、3に繰り上げることも考えられる。

(文責 公文富士夫)



猪苗代湖コアの原寸大写真を並べて検討する集会参加者

◆ INQUA 回想録 1969 年第 8 回 INQUA パリ会議に派遣されて

杉村 新

第四紀学に関する国際会議が最初に開かれたのは、1928 年コペンハーゲンにおいてであった。母体は International Association for Quaternary Research で INQUA と略称された。日本からは、一人も出席していない。しかし、当時日本でも、第四紀学の芽生えがあった。私の先生だった大塚弥之助が 1931 年に岩波講座に「第四紀」を書いていて、この中には、標準年尺度、動植物、人類遺跡遺物、気候変化、地形、造構造史、火山活動史など、関連分野が皆盛り込まれ、総合的方法を述べている。また大塚は、現在からさかのぼって地史を組み立てる独自の方法を取り、「第四紀」を第 2 の「現在」として、さらに過去をさぐった。先見性のある第四紀学の草分けと、私は考える。

国際会議の第 2 回は 1932 年レニングラード、第 3 回は 1936 年ウィーンで開かれた。この頃から、日本人も出席するようになった。戦争で途絶えたが、第 4 回は 1953 年ローマで行なわれた。日本にも INQUA への対応機関として、日本学術会議の地質学研連の中に第四紀小委員会ができ、代表を派遣するようになった。これは INQUA 日本支部であると同時に、国内的には学会のように機関誌も出していた。この小委員会は間もなく発展的に解消し学術会議の中の第四紀研連と、日本第四紀学会とになった。

一方国際会議は、第 5 回 1957 年マドリッド、第 6 回 1961 年ワルシャワ、第 7 回 1965 年ボールダー。第 7 回以来 INQUA は組織を整え、名前も International Union for Quaternary Research と変えた。略称は元通り INQUA である。日本も 1969 年から分担金を払うようになり、そのため第 8 回大会には学術会議から代表 2 名がパリに派遣された。小林国夫氏と私である。この 2 人を含め日本から 11 人が参加した。大学紛争で欠席した人がいたので本来なら参加者はもっと多かったはずである。以下にその時の様子を紹介しよう。



1969 年 9 月 1 日昼食時、パリ大学のレストランで撮ったもの。左隅の後ろ向きは私、向こう側の左が小林国夫氏、右が木越邦彦氏。

第 8 回大会は、1969 年 8 月 30 日～9 月 5 日、パリ大学の校舎で開かれた。54 カ国から出席 760 名（同伴者を含む）、講演数 800（当時まだポスターセッションはなかった）、総会や（各国の）代表者会議のほか、完新世・テフロクロノロジー・ネオテクトニクス・層序学などの委員会が 10 余り、大きな展示室 1、巡検 20 余り。私の感想だが、さまざまな分野の学者がしかも習慣の違う国々から集まったので、パリ大の一地理教室のスタッフだけではさばききれない面もあり、会場の技術的な面で、時には支障を来すことも起った。小さな教室で、聴衆が入りきれないことが多かった。同じテーマの講演が、同時に 2 カ所であったり、専門委員会が開かれている最中に、その専門の講演があったりした。

日本学術会議から派遣されたので、私は会議の議事に加わる義務があったが、英語の聞き取りに慣れていなかったためと、主に課題が INQUA の専門委員会の組織についてで、そういう議論になじみがなかったためもあり、私は議事に加わることができなかった。しかし小林さんが日本代表の役目を立派に果たしてくれたので助かった。

私はこの大会で、日本列島の「第四紀地殻変動図」を発表した。これは、1969 年国立防災科学技術センターが印刷発行したもので、地形学的方法による隆起量図、地質学的方法による隆起沈降量図、集成隆起沈降量図、断層分布図、褶曲分布図、接峰面図の 6 葉からなる。著者は第四紀地殻変動研究グループで、そのメンバーは 10 人、うち主だって作成に当たったのは、8 人（吉川虎雄、杉村 新、米倉伸之、貝塚爽平、成瀬 洋、羽鳥謙三、高橋博、太田陽子）であった。この人たちのおかげで出来上がったのであるが、グループを立ち上げたのと、最後にまとめたのは私であった。

ここから先は私の推測であるが、この発表は、好評だったようで、多分そのため、次の 1973 年ニュージーランドでの INQUA 大会で、私は次期のネオテクトニクス委員会委員長に指名された。私はその大会に欠席していたがネオテクトニクス日本委員の代理を頼んだ貝塚氏が、代りに承諾の返事をしてくれた。私は、その後 4 年間 INQUA のネオテクトニクス委員会委員長を務めたが、松田時彦氏などの助力もあり無事任を終えた。大したことはできなかったが、シドニーで 1976 年に開かれた IGC の機会に委員会を開き、また任期末には各国からの報告書をまとめたぐらいであった。

さらに委員長を務めたことが主な理由で、後に INQUA の名誉会員に名前を連ねることになった。今回 2015 年第 19 回名古屋大会の組織委員会の名誉委員長にさせられているのも、「名誉会員」というのが理由のようである。頼りない名誉委員長であるが、どうか皆様のご協力をお願いしたいと思っている。

◆ 2012 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2013 年 3 月 3 日（日）15:30～17:00

場所：名古屋大学 環境総合館 3 階講義室 1

出席者：遠藤邦彦（会長）、吾妻 崇、海津正倫、岡崎浩子、小野 昭、河村善也、北村晃寿、久保純子、公文富士夫、斎藤文紀、竹村恵二、中村俊夫、中村由克、兵頭政幸、水野清秀（以上、評議員）、高田将志（幹事）、熊井久雄、町田 洋（以上、会長経験者）、大場忠道（名誉会員）

久保幹事長の司会のもと、遠藤会長のあいさつに続き、議長に海津正倫評議員が選出された。定足数確認（出席 14 名、委任状 24 通）後、各担当幹事等より下記の報告と審議が行われた。

1. 2012 年度事業中間報告

1-1 庶務

1) 総会・評議員会・幹事会の開催：2012 年度第 1 回評議員会を 2012 年 8 月 20 日に立正大学熊谷キャンパスで開催した（出席 25 名、委任状 13 通、議長：河村善也会員）。また 2012 年総会を 8 月 21 日に立正大学で開催した（出席正会員数 88 名、委任状 135 通、名誉会員 2 名、議長：海津正倫会員）。幹事会は、2012 年 8 月 20 日、10 月 27 日、2013 年 1 月 12 日、3 月 3 日と計 4 回開催した。第 2 回評議員会を 2013 年 3 月 3 日に名古屋大学にて開催する。また第 3 回評議員会を地球惑星科学連合大会期間中（2013 年 5 月 19～24 日）に、会場である幕張メッセで開催する予定で調整中である。

2) 2012 年度の会費減免申請を 1 件受け付けた（審議事項 1 参照）。

3) 原子力規制委員会から破碎帯等の現地調査団員候補者の推薦依頼があり、幹事会で推薦者名簿を作成し、提出した。

4) 以下のシンポジウム等の共催・後援を行った。共催 4 件：「彩の国さいたまの自然を楽しむ野外見学会とミニ講演会」（埼玉県立川の博物館・自然の博物館、2012 年 11 月 10・11 日）、3rd APLED 特別講演会（岡山理科大学、2012 年 11 月 18 日）、第 22 回環境地質学シンポジウム（産業技術総合研究所、2012 年 12 月 7・8 日）、「第 57 回粘土科学討論会」（高知市、2013 年 9 月 4～6 日）。後援 3 件：日本地質学会関東支部主催「銚子巡検」（2012 年 12 月 7・8 日）、2nd ASQUA Conference (Ulan-Ude-Baikal、ロシア、2013 年 9 月 9～15 日；後援予定)、第 10 回環境地盤工学シンポジウム（日本大学、2013 年 9 月 17・18 日）。

5) 以下の 6 件の転載許可を行った。

ア) 姫路市から、町田・新井、1983、第四紀研究、22・3 の図 10 の転載許可願（予定転載先：姫路市史第 1 巻下 本編考古）があり、これを許可した。

イ) 共立出版から、以下の著作物の転載許可願（予定転載先：シリーズ 現代の生態学 2 巻「地球環境変動の生態学」）があり、これを許可した。

・五十嵐ほか、2012、第四紀研究、51、175-191 の図 2

・三宅ほか、2005、第四紀研究、44、275-287 の

図 2

ウ) 奥野 充会員から、以下の著作物転載許可願（予定転載先：長岡信治遺稿集、長岡信治遺稿集刊行会）があり、これを許可した。

・長岡、1986、第四紀研究、25、139-163、のすべて

・中田ほか、1994、第四紀研究、33、361-368、のすべて

・長岡、1996、第四紀露頭集編集委員会編「第四紀露頭集—日本のテフラ」、日本第四紀学会、315、のすべて

・長岡、1999、第四紀研究、38、93-107、のすべて

・熊原・長岡、2002、第四紀研究、41、213-219、のすべて

・井上ほか、2006、第四紀研究、45、303-311、のすべて

エ) 大村市史編さん室から、日本第四紀学会（1987）百年・千年・万年後の日本の自然と人類、第四紀研究にもとづく将来予想、古今書院の「過去 13 万年間の気候変動」（p.27 の図 3）と「過去 70 万年間の気候変動」（p.45 の図 3）の転載許可願（予定転載先：『新編 大村市史』第一巻 自然・原始・古代編、第二章 気象）があり、これを許可した。

オ) 遠藤邦彦会員から、以下の著作物転載許可願（予定転載先：フィールドジオロジー 9 巻 第四紀、日本地質学会、共立出版）があり、これを許可した。

・Nagahashi and Satoguchi、2007、The Quaternary、46 (3)、205-213 の Fig. 3

・鴨井ほか、2006、第四紀研究、45、67-80、の図 3

・佐瀬ほか、2008、第四紀研究、47 (1)、1-14、の図 8

・佐藤、2010、第四紀研究、49、283-292、の図 4

・松島、2010、第四紀研究、49、1-10、の図 1、4

・青木ほか、2008、第四紀研究、47、391-407、の図 2

・中川ほか、2009、第四紀研究、48 (3)、207-225、の図 8

カ) 公文富士夫会員から、檀原ほか、2010、第四紀研究、49、101-119 の著作物転載許可願（予定転載先：日本の湖沼掘削、地学雑誌）があり、これを許可した。

6) 考古学分野評議員に欠員が生じたため、規定に基づき補充を行い、中村由克会員を新評議員とした。

7) 2013 年学会賞受賞者選考委員候補者の評議員による投票を行い、次の 5 名の委員を確定した：池田安隆（地理）、河村善也（古生物）、佐藤宏之（考古）、百原 新（植物）、米田 穰（人類）、各会員

8) 2013 年論文賞受賞者選考委員候補者の評議員による投票を行い、次の 5 名の委員を確定した：青木賢人（地理）、五十嵐八枝子（植物）、卜部厚志（地質）、奥田昌明（地質）、高橋啓一（古生物）、各会員。

9) 2013 年学会賞・学術賞受賞候補者の推薦、論文賞・奨励賞の受賞候補者・論文の推薦依頼を第四紀学会 ML、ホームページなどを通して行った。

10) 選挙管理委員会委員候補者として以下の6名を幹事会から推薦し、委員として確定した：石村大輔、齋藤めぐみ、谷川晃一郎、千葉 崇、中島礼、吉田英嗣、各会員。

1-2 編集

1) 編集状況

第四紀研究第51巻第5号(総説1編、書評3編、19頁)、第51巻第6号(論説1編、15頁)、第52巻第1号(論説1編、短報1編、32頁)を刊行した。第52巻第2号(論説1編、短報1編、書評2編)は現在編集中である。編集委員会は、第1回(9月29日)、第2回(12月8日)、第3回(2月2日)と開催した。2012年の投稿数は22編(特集号5編を除く)であった。なお、2011年は25編(特集号と雑録・書評を除く)、2010年は28編(第四紀の新定義に関する特集の7編を含む)であった。1月11日現在の手持ち原稿は、7編(論説6、短報1)である。

2) 立正大学大会の特集号について

特集号編集委員は、早田 勉(代表)、萬年一剛、池原 研、鈴木毅彦、奥野 充の5名に編集幹事・編集書記が加わる。当初、12編の原稿が予定されていた。そのうちの7編が投稿済みで、現在査読中である。この7編で特集号を組む。

3) その他

「日本第四紀学会編集委員会規定」について、編集委員会で検討した後、第2回(12月)と第3回(1月)の幹事会で提案・審議し、了承を得た(審議事項2参照)。

1-3 行事および企画

1) 日本第四紀学会2012年大会「熱い討論 第四紀学会2012年大会 in 立正大熊谷(立正大学開校140周年記念)」を、8月20日(月)～22日(日)の期間に、立正大学熊谷キャンパス(埼玉県熊谷市)にて開催した。今大会では複数セッション制を試み、従来のような第四紀のさまざまなテーマを扱う「一般セッション」と、熊谷大会で設定した「テフラと年代測定」に関連する「テーマセッション」(日本火山学会、日本鉱物科学会、日本地形学連合、日本地質学会と共催)が、20日と21日の2日間にわたって行われた。一般セッションは口頭21件、ポスター36件、テーマセッションは5つのサブセッションに分けられ、口頭52件、ポスター12件の発表があった。22日は国立極地研究所の協力のもと、公開シンポジウム「氷床コア等から得られる第四紀環境情報」および市民・児童生徒向けの普及活動(展示・質問コーナー・南極との中継)を行った。参加者数は、20・21日の研究発表では、会員172名、共催学会会員12名、非会員87名の合計271名、22日の公開シンポジウム・普及活動の参加者は、会員36名、一般(大人)104名、高校生0名、中学生2名、小学生10名、幼児3名の合計155名であった。また、会場では有料の企業展示が行われ、7企業の出展があった。一般セッションおよびテーマセッションでは、昨年に引き続き若手・学生会員を対象とした発表賞が企画され、口頭発表については、会長から推薦された約10名の正会員による審査・投票、ポスター

については、大会参加者全員による投票が行われた。期間中、大会についてのアンケートを実施し、9名から回答が寄せられた。8月23日(月)は「荒川上・中流域の第四紀」のバス巡検が実施され、25名の参加があった。このほか、大会と平行して7月14日(土)～9月2日(日)まで、埼玉県立川の博物館(埼玉県寄居町)では日本第四紀学会後援で特別展が開催され、8月19日に関連講演会(日本第四紀学会共催)が行われた。

2) 企画担当と協力して、日本第四紀学会2013年大会の準備を行っている。開催期間は2013年8月22日(木)～8月25日(日)、開催場所は弘前大学(青森県弘前市)に決定した。日程は、8月22日(木)に一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会、8月23日(金)に一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・懇親会、8月24日(土)にシンポジウム(「津軽の地形地質と縄文遺跡群」を中心とするテーマを検討中)、8月25日(日)に巡検(「津軽の地形地質と縄文遺跡群」(日帰り、会員向け)を中心に検討中)を計画している。これらの概要は、第四紀通信第20-1号に日本第四紀学会2013年大会案内(第1報)として掲載した。

3) 2014年夏の日本第四紀学会大会を東京大学柏キャンパスで開催する方向で準備をすすめている。川幡穂高会員(東京大学大気海洋研究所)をはじめ、会場校の会員の方々から既に内諾を得ており、今後詳細を詰めて行く予定である。

4) アウトリーチ活動として埼玉県立自然の博物館・川の博物館との共催で、2012年11月10日(土)に「彩の国さいたまの自然を楽しむ野外見学会」、11月11日(日)に「彩の国さいたまの自然を楽しむミニ講演会」(埼玉県立川の博物館)を実施した。

5) 2012年11月18日(日)に岡山理科大学で3rd APLED 特別講演会(講演者と講演題目：横山祐典会員、Quaternary Geochronology reveals close relations between climate and sea level)を共催した。

6) 2013年3月3日(日；評議員会開催当日)13:30～15:30に2012年学会賞受賞者講演会(中村俊夫会員、河村善也会員；於、名古屋大学)を開催する。また、平成25年6月22日(土)に2011・2012年学術賞受賞者講演会(寒川 旭会員、兵頭政幸会員、成瀬敏郎会員；於、大阪大学)を開催する。

7) 2013年4月20日(土)・21日(日)に鳥取砂丘の形成史に関する巡検(案内者：小玉芳敬・田村 亨会員)を開催する。

1-4 広報

1) 第四紀通信第19巻5号、6号、第20巻1号を編集し発行した。

2) 第四紀学会のホームページから2015年INQUA名古屋大会のホームページへのリンクを張った。

1-5 渉外

1) 地球惑星科学連合関係

2013年地球惑星科学連合大会において第四紀学会は以下のセッションを提案し、承認された。

- * ヒト-環境系の時系列ダイナミクス（地球人間圏）第四紀学会単独開催
 - * 活断層と古地震（固体地球科学）第四紀学会・地震学会・活断層学会主催
 - * 平野地域の第四紀層序と地質構造（固体地球科学）第四紀学会・地質学会主催
 - * ジオパーク（領域外・複数領域）第四紀学会・地質学会・地理学会共催
 - * 津波堆積物（領域外・複数領域）第四紀学会・堆積学会・地質学会・地震学会・地理学会共催
 - * 人間環境と災害リスク（地球人間圏）地理学会主催、第四紀学会、地図学会、火山学会、地理情報システム学会、地質学会、活断層学会、連合環境災害対応委員会共催
- 2) 自然史学会連合関係

12月22日自然史科学学会連合年次総会（東大ミューズホール）出席。小中学生向け出版企画が提案され、協力可能な学協会は編集委員を推薦することとなった。幹事会において、第四紀学会から植木会員を代表として推薦した。

3) PAGES 関係

インドゴアにて2月13～16日に open science meeting が開催され、横山会員、久保会員ほか第四紀学会員が参加発表を行った。

2. 2012 年度会計中間報告

会費の納入率が2012年12月31日現在88%程度であること、2012年大会時の講演要旨の売り上げ、大会剰余金、講演要旨印刷費、学会賞等顕彰費などの確定した金額、今後役員選挙費、デジタルブック最新第四紀学CD出版費で150万円程度が見込まれていることなどが報告された。

3. 国際第四紀学連合第19回大会組織委員会報告

齋藤委員長より、以下の報告がなされた：2012年熊谷大会に合わせて、組織委員会第1回会合を開催したほか、幹事会を4回（第6～9回：9月29日、11月4日、1月12日、3月2日）開催した。

◆編集委員会規定制定

これまで内規や申し送り事項などをもとに運営しておりました編集委員会に対して、3月3日の評議員会において幹事会から新しく編集委員会規定案が提案され、修正を行った後、承認されました。

日本第四紀学会編集委員会規定

(目的)

第1条 本委員会は日本第四紀学会編集委員会と称する（以下、委員会と呼ぶ）。委員会は、日本第四紀学会会誌「第四紀研究」（英語名：The Quaternary Research, 以下、会誌と呼ぶ）の編集を行い、同誌の充実と円滑な発行のための作業を行う。

(構成)

第2条 委員会は、幹事会から選任された編集幹事2名と幹事会によって承認された編集委員並びに編集書記から構成される。編集幹事は委員会を統括する。編集幹事あるいは委員の少なくとも1名は電子ジャーナルの担当とする。

日本学術会議の国際会議共同主催について申請を行い、書類選考を通過し、2013年2月5日に日本学術会議において開催計画に関するヒアリングを受けた。また、日本政府観光局（JNTO）の寄付金交付金制度に申請し、制度利用が内定を受けた。そのほか、ウェブサイトの開設、巡検の公募、大会ロゴの検討、他学協会への協力依頼準備などを実施した。

4. 審議事項

4-1 会費減免申請の承認

2012年度の会費免除申請1件があり、水野庶務幹事から申請理由と証拠書類の提示が示され、会費全額免除が承認された。

4-2 編集委員会規定の承認

日本第四紀学会編集委員会規定がこれまでなかったことから、その規定案が岡崎編集幹事より説明・提案され、議論が交わされた。審議の結果、文言等の一部修正を加えたうえで、編集委員会規定案が承認された（編集委員会規定の項参照）。

4-3 第四紀研究掲載最新論文のJ-Stageでのアクセス自由化について

第四紀研究最新1年分の論文はJ-Stageでの閲覧が会員にしかできなかったが、その制限を外す提案が幹事会（編集幹事）より出され、現実的には閲覧できるまでに半年ほどかかっていることや、会員のメリットとなる差別化を別の点で強化することなどの議論を経て、アクセス自由化について承認された。

4-4「第四紀研究」投稿の活性化について（意見交換）

最近の「第四紀研究」の掲載論文数が少ないことに対して、遠藤会長より投稿数が増加するように投稿しやすい雰囲気を作ることや「講座・解説」などを増やす努力が必要であるという意見が出され、討論を行った。査読時間の短縮、査読のレベルを落とすこと（落とせないこと）、号数を減らすこと、若手研究者への事前指導、国際誌やほかの国内雑誌との競争に勝てる特色を出すこと、投稿の呼びかけを行うことなど様々な意見が出された。

編集委員会規定制定

2. 大会時のシンポジウム等の内容をまとめた特集号については、上記委員会とは別に特集号編集委員会を組織できる。構成は、幹事会から選任された編集幹事2名と幹事会によって承認された若干名の編集委員ならびに編集書記からなることとする。

(業務)

第3条 委員会は、「第四紀研究」の編集業務を行う。また、電子ジャーナルとしての公開と維持に関する作業を行う。第四紀研究投稿規定と執筆要項、「第四紀研究」の体裁や内容の充実等について必要な検討を行い、その結果について幹事会に報告する。執筆要項に関しては委員会がこれを定め、改訂の必要がある場合には、幹事会に報告し、承認を求める。

2. 特集号編集委員会は、「第四紀研究」特集号の編集に関する業務を行う。特集号の編集業務は、通常号に準じる。

(原稿とその受付)

第4条

投稿の手続き並びに原稿の書き方は別に定める投稿規定及び執筆要項による。

2. 原稿は日本第四紀学会編集委員会に提出する。編集委員会の所在は、投稿規定の末尾及び最新の会誌奥付の学会事務局の住所である。

3. 委員会は、投稿原稿について受付処理をし、その受付年月日を記録し、原稿を保管する。原稿、送り状、保証書、電子ファイルがそろっていない場合には受付をせず、投稿者に確認する。すべてがそろった段階で受付とする。受付日は原稿が委員会に届いた日とする。委員会は、必要書類が整っている場合には、受付日を明記して受付の連絡を投稿者に行う。ただし、投稿原稿が投稿規定に明らかに反している場合には、受付前に理由を付して、原稿を投稿者に返却することができる。保証書の管理は学会事務局で行い、その他の受付処理は編集書記が行う。

(原稿の審査と採否)

第5条

委員会は、査読者を選定し、査読依頼を行い、査読結果の提出を求める。

2. 委員会は、投稿原稿について著者に修正を求めることができる。原稿が修正のために投稿者の手元に返ったまま6ヶ月経過したときは、その投稿原稿は取り下げられたものと見なす。ただし、特別な事情がある場合には委員会の審議を経て、期間を延長することができる。

3. 委員会が掲載を適当と認めた段階で投稿原稿を受理とする。委員会は受理年月日を記録し、投稿者に通知する。投稿者から最終原稿と必要な署名がされた著作権等譲渡同意書の提出をもって掲載許可とする。同意書の管理は学会事務局で行う。

4. 委員会が掲載不可と認めた原稿は、理由書とともに、投稿者に返却する。

5. 受付から受理あるいは掲載不可の決定までの原稿の状況管理は編集書記が行う。

(印刷と校正)

第6条 委員会は、原稿の入稿から校正、校了まで、会誌印刷のためのすべての作業について責任をもって行う。初校に限り、著者校正を行う。校正は三校まで行う。

(会議の開催と事務)

第7条 会議の開催は編集幹事が決める。会議開催に関する連絡や会場の準備等の事務は編集書記が行う。

(会計)

第8条 委員会の活動にかかる経費は会誌編集費から支出する。会誌編集費からの編集委員の旅費、通信費等の支払いや帳簿・必要書類の管理並びに学会事務局への決算報告等は編集書記が行う。

(規定の改訂)

第9条 本規定の変更は、幹事会の議を経て、評議員会の承認を必要とする。

付則 本規定は2013年3月3日から実施する。

◆第 57 回粘土科学討論会の案内

以下の日程で、粘土科学討論会が実施されます。

主催：日本粘土学会

共催：資源・素材学会、資源地質学会、ゼオライト学会、地盤工学会、日本化学会、
日本火山学会、日本鉱物科学会、日本セラミックス協会、
日本セラミックス協会資源・環境関連材料部会、日本第四紀学会、
日本地学教育学会、日本地球化学会、日本地質学会、日本土壌肥料学会、
日本熱測定学会、日本ペドロロジー学会、農業農村工学会（順不同、予定）

会期：2013年9月4日（水）～6日（金）

会場：高知市文化プラザかるぼーと

詳細は日本粘土学会 HP をご覧ください。http://www.cssj2.org/

主要日程：参加・講演の申込期間 6月3日（月）～14日（金）

講演要旨送付締切 7月12日（金）

参加登録料（要旨集代込）・懇親会費・見学会費の払込期間 6月3日（月）～7月12日（金）

討論会・見学会 9月4日（水）～6日（金）

問合せ先：〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1

高知大学 理学部 地球科学教室 中川昌治

Tel：088-844-8329、Fax：088-844-8356

E-mail：mnakagaw(at)kochi-u.ac.jp

◆2012年度第3回幹事会議事録

日時：2013年1月12日（土）14:00～17:00

場所：早稲田大学教育学部 1029 会議室

出席者：遠藤、小野、竹村、久保、池原、出穂、植木、
岡崎、北村、須貝、長橋、兵頭、水野、奥村（学
術会議）、中野（事務局）

（報告事項）

- 1) 学会への連絡・寄贈・配布物：4件
- 2) 論文賞受賞者選考委員、学会賞受賞者選考委員の評議員による投票を締め切り、これから当選者の確認作業を行う。
- 3) 2013年3月3日に行う、学会賞受賞者講演会、評議員会、幹事会のスケジュールを確定した。
- 4) 2013年大会のスケジュールを決定した（8月22日～25日、弘前大学、シンポジウム・巡検含む）。
- 5) 鳥取砂丘巡検（2013年4月20～21日）の詳細を確定した。
- 6) 第四紀研究 51 巻 5、6号を刊行、52 巻 1号は校正中。第2回編集委員会を12月8日に開催した。立正大学大会の特集号については、12編を予定し、現在5編査読中。編集書記のサポート体制について、確認した。
- 7) 地球惑星科学連合大会の発表受付期間などが

決まり、会員 ML で情報を流すことにした。

8) 2015年 INQUA 第19回大会の日本学術会議への共同主催申請書を作成し、提出した。寄付金、ロゴマークなどについて検討中。

9) ‘Anthropocene’ という時代を設定することについて提案されつつあり、INQUA 分科会を中心にシンポジウムを予定している。

（審議事項）

- 1) 考古学分野評議員の逝去に伴い、次点者を補充することとした。
- 2) 2013年の役員選挙を行うに当たり、選挙管理委員候補者を幹事会から推薦し、3月または4月には委員会を立ち上げることにした。また、共通分野枠の必要性について議論し、これまでどおり枠を残すことにした。
- 3) 2013年開催される ASQUA 国際シンポジウムについて後援することを決め、後援承諾のフォームや挨拶者の確認を行うことにした。
- 4) 編集委員会規定案について再検討を行い、3月の評議員会にて正式に提案することにした。
- 5) 自然史学会連合から一般者向け書籍出版の計画があり、渉外委員会・アウトリーチ委員会が主に対応することにし、編集委員としては須貝・植木両幹事を中心に調整することにした。

◆ 2012 年度第 4 回幹事会議事録

日時：2013 年 3 月 3 日（日） 11:00 ～ 13:20

場所：名古屋大学環境総合館 6 階 616 号室

出席者：遠藤、小野、竹村、久保、岡崎、北村、兵頭、高田、水野

- 1) 2012 年度第 2 回評議員会の報告・審議内容について確認した。
- 2) 2012 年大会以降の共催 4 件、後援 3 件と転載許可 6 件の報告・確認を行った。
- 3) 2nd ASQUA Conference (2013/9/9 ～ 15、

Ulan-Ude、ロシア) に対して後援することにし、評議員会、ML などでも宣伝して協力することにした。

4) 会費長期滞納者への連絡方法について確認した。

5) 第四紀研究最新掲載論文の J-Stage でのアクセスフリー化について議論し、フリー化する方針で評議員会において提案することとした。

6) 「第四紀研究」掲載論文が少ないことに対して、現状確認を行い、投稿数を増やすためにどうすればよいか、議論を行った。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸 (mhyodo(at)kobe-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海域環境教育研究センター 兵頭政幸

〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 FAX : 078-803-5757

広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176